

リーディングDXスクール事業【GIGA×指導の工夫・改善】

熊本市立五福小学校（熊本県）【指定校】

【GIGA×指導の工夫・改善】 子ども自らが、客観的に自己評価しながら学習を進めるルーブリック評価活用の事例

パフォーマンス課題【円の複合図形の面積を求める問題で、分かりやすい解説動画を作る】

グループごとに、別々の円の複合図形を提示し、それぞれ解説動画を作成する。その後、学級全体でそれらの問題を解き習熟を図る。その際に、それぞれが作成した動画をもって解説とする。

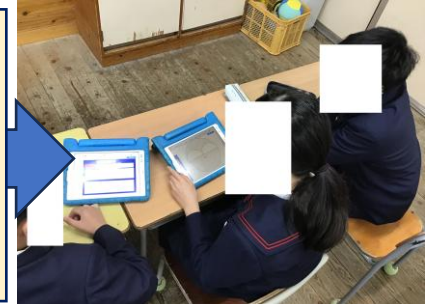
(1) ルーブリックを作成する

(2) 解説動画を作りながらルーブリックを確認。自分たちで修正を行う。

ルーブリック			
評価する	A	B	C
内容構成			図形の変形の様子がよく分らない。
協働			出された意見に対して、検討をしていない。

ルーブリック			
評価する	A	B	C
内容・構成	大きさや配置、アニメーションなどの工夫があり、一目見て図形の変形が分かる。	大きさや配置、アニメーションなどの工夫が少しあり、何度も見れば図形の変形が分かる。	大きさや配置、アニメーションなどの工夫がなく、図形の変形がよく分らない。
協働やり取り	出された意見に対して、みんなでその意見を検討し、さらに良い意見やアイデアに高めている。	出された意見に対して、みんなでその意見を検討している。	出された意見に対して、全員で検討をしていない。

子供が課題に取り組む際に、立ち止まって客観的に振り返るための材料となる基準を作る。
C基準のみ教師が示し、B,Aの基準に関しては今回は学級全体で検討しながら作成した。



<考察>

自己の活動を、常態的に客観視しながら振り返ることは難しい。だが、成果物や作成過程の基準をあらかじめ、子供たちと一緒に作成し確認することで、子供が常に客観的に振り返る機会を設けることができる。

今回は学級全体の事例を挙げているが、学年や内容によっては、グループごとや個人で作成することも考えられる。

あらかじめ、振り返りや評価の基準を確認し、常に見られる状態にすることで、お互いに評価し合い高め合う際にも、そのよりどころを作ることができる。

その他の事例



高学年では、グループごとに基準を作成して活動することも可能。



内容や学年によっては、項目を増減、また、より成果物に即した項目も考えられる。